

令和6年度山形県

発掘調査速報会

令和7年3月2日(日)
13:00～16:00
山形県生涯学習センター
遊学館 2階ホール



令和6年度 山形県発掘調査速報会

主催 山形県 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
 共催 山形市 米沢市教育委員会 南陽市教育委員会 大江町教育委員会
 日時 令和7年3月2日(日) 13:00～
 会場 山形県生涯学習センター 遊学館 2階ホール

- 12:00 開場
- 13:00 開会
- 13:05 令和6年度の県内の発掘調査の概要について(山形県)
- 13:25 報告① 史跡山形城跡(山形市)
- 13:45 報告② 史跡左沢楯山城跡
(大江町教育委員会)
- 14:05 報告③ 若木館跡
(山形県埋蔵文化財センター)
- 14:25 休憩
- 14:45 報告④ 史跡館山城跡
(米沢市教育委員会)
- 15:05 報告⑤ 長岡南森遺跡
(南陽市教育委員会)
- 15:25 報告⑥ 西田1・2遺跡
(山形県埋蔵文化財センター)
- 16:00 閉会



発掘調査速報会報告遺跡一覧

遺跡名	調査回数	所在地	種別	時代	調査面積	調査日程	起回事業
史跡山形城跡		山形市	城館跡	中世・近世	1,500㎡	5月23日～ 12月27日	史跡整備事業
史跡左沢楯山跡		大江町	城館跡	中世・近世	80㎡	10月15日～ 11月15日	史跡整備事業
若木館跡		山形市	城館跡	中世	700㎡	6月11日～ 10月11日	若木土砂災害対策事業
史跡館山城跡		米沢市	城館跡	中世・近世	63㎡	8月26日～ 12月2日	保存・整備目的の内容確認調査
長岡南森遺跡	第7次	南陽市	集落跡ほか	旧石器・縄文・ 弥生・古墳・平安・ 中世	176㎡	5月8日～ 7月23日	保存目的確認事業
西田1・2遺跡		高島町	集落跡	古墳・奈良・平安・ 鎌倉	10,120㎡	6月3日～ 12月27日	農地整備事業(経営体育成型) 亀岡西地区
生石2遺跡	第4次	酒田市	集落跡	弥生・奈良・平安	50㎡	9月17日～ 20日	学術調査
越中山遺跡		鶴岡市	遺物包蔵地	旧石器・縄文	68㎡	4月29日～ 5月9日	学術調査
高瀬山遺跡(F地点)		寒河江市	集落跡	縄文・古墳・平安	121㎡	9月11日～ 10月11日	個人住宅建設
諏訪原2遺跡		山辺町	集落跡	中世・近世	1,100㎡	5月20日～ 9月13日	交通安全道路事業 主要地方道山形朝日線(山辺工区)
米沢城東二の丸跡	第19次	米沢市	城館跡	中世・近世	106㎡	10月15日～ 11月15日	個人住宅建設

山形城跡の発掘調査は史跡整備に伴うもので、令和6年度は本丸北堀土塁跡の第6次調査と、二ノ丸北側の旧市営球場跡地の第3次調査を行った。北堀土塁跡では土塁裾に「瓦捨て場」を検出した。極めて多量の瓦が土砂をあまり挟まずに堆積しており、一括廃棄であることを示している。瓦は黒瓦が主体だが施釉の赤瓦も含み、その比率は黒瓦：赤瓦が4：1であった。黒瓦群の特徴は堀田氏家紋鬼瓦や幕末期直前の19世紀前半までの瓦群である。赤瓦の導入時期は堀田氏家紋軒丸瓦が出土するため、18世紀前半と考えている。18世紀半ばには約3年間幕府直轄領期があり城内が荒廃したと伝わり、その後入部した秋元氏により城修復が進められた結果、瓦の廃棄が行われた可能性が高いと考えられる。今年度調査地点は、鬼瓦・鯨瓦の出土から本丸北東隅の「良ノ方櫓」^{うしとらのかた}に由来すると考えられる。瓦を除去すると、その奥に「護岸石垣」が出現した。本丸土塁の裾部に高さ70～80cmの玉石積みで築かれ、石の平らな面を表面に配置し石垣全体が平滑化する志向がうかがえる。背後は地山の砂礫層で裏込めはなく、切り落とした斜面に直接石材を積み上げていた。同様の遺構は、これまでの調査でも本丸土塁の裾

部に認められた遺構であり、現存する二ノ丸土塁裾にもある山形城の特徴である。

二ノ丸旧市営球場跡地は約500㎡の東西トレンチ調査を行った。現在の地表面から地下1m程は近現代のかく乱再堆積層であった。その直下から近世の瓦及び礫の集中箇所がいくつか検出されたが、遺構は検出されず近世前期の盛土であることがわかった。盛土層は褐色で厚さ1m以上に及び、同層からは土師質土器・金属製品・輸入磁器・国産陶器等が比較的大量に出土した。これらは江戸時代前期までの所産であり、最上氏時代に相当する可能性が高い。

今年度の調査で、本丸北堀土塁の様相と二ノ丸の遺構の残存状況が明らかになった。

(五十嵐貴久)



瓦捨て場出土堀田氏家紋黒鬼瓦



本丸北堀土塁跡瓦捨て場断面と護岸石垣検出状況



二ノ丸旧市営球場跡地調査状況（北東から）

左沢楯山城跡は最上川を眼下に臨む楯山に築かれた山城の跡である。出羽国村山地方を代表する中世から江戸時代前期の城跡で、「左沢氏とその一族、伊達氏、最上氏との抗争を軸に展開した村山地方の中世から近世に至る動向を知るうえで貴重な城跡」として、平成21年2月12日、約25haが国史跡に指定された。現在は「八幡座」や「ゴホンマル」など城中核部への散策路や調査でみつかった櫓跡を表示した案内板などが整備されている。

今回の発掘調査は、今後整備が予定される北側丘陵東部の「寺屋敷」上部曲輪（C9）で実施した。「寺屋敷」では大型の掘立柱建物や池状の石組みが確認されている。城内最大の面積を持つ迎賓館的な空間で、その上部

曲輪は「寺屋敷」で使用した器材が収納された可能性が指摘されている。平成29年から史跡整備目的の調査を進めており、今年度は5年目として曲輪東部と北部に調査区を設定した。

東部の調査区では地山の軟岩の上で、深いものは70cmほど掘り込まれた円形と方形の柱穴跡約60基を確認した。過年度の調査でみつかったものとあわせて複数の掘立柱建物を構成するとみられる。

軟岩の表面は概ね平らになっているが、長さ10～20cm、深さ数mmから数cm程度の細かい溝や数cmの方形の窪みなど、人為的な細かい痕跡が確認された。鋤や鍬様の工具の刃の跡とみられ、曲輪が築かれた当時、岩盤をはつって平らに成形したときのものが含まれると考える。

北部では、谷に設けられた虎口の付近で、軟岩のブロックによる埋め立ての痕跡を確認した。岩盤を成形した際生じたブロックで谷を埋め立て、曲輪を造成したと考えられる。

今後は建物とともに、岩盤を加工した工具の痕跡から読み取れる情報や旧来の地形と造成状況を検討し、築城にまつわる歴史の一端を明らかにすることが課題である。

(水戸部泰子)



岩盤（軟岩）を掘り込んだ柱穴跡と表面に残る工具の痕跡 1



岩盤（軟岩）を掘り込んだ柱穴跡と表面に残る工具の痕跡 2



柱穴跡の中にも工具の痕跡が残っている

若木館跡の調査は、土砂災害防止事業に伴って行われた。調査は調査区を工事用道路建設区・東調査区・西調査区の3か所に分けて行った。なお、東調査区はさらに上段と下段に分けている。

工事用道路建設区ではテラス状の平坦面を作り出し、その後に埋め戻しを行っている箇所や江戸時代後半に行ったと考えられる土地造成の痕跡も確認出来た。

東調査区の上段面では多くの柱穴と溝跡が検出された。柱穴は直径が小さく、深く掘りこむものが多い。この特徴は中世にみられるものであり城館が機能していた時期に掘られたものと考えられる。柱穴の中には直径80cm程のものも存在した。下段面では平坦面を作り出すための整地が行われていることが確認できた。

西調査区では北半分で平坦面を作り出すための整地層が確認された。整地層の上面からはピットや溝が少数検出された。調査区の南側では柱穴が集中して検出された。柱の軸線もある程度そろっていることから建物が存在していたと考えられる。この部分は地山が露出し地盤が安定している場所である。

遺物は15世紀頃の青磁や白磁、天目茶碗、

茶臼や火鉢（風炉?）など、お茶に関する道具が出土した。また、縄文土器や近世に属する陶磁器、石鉢や埴塼・古銭などが出土している。

若木館跡は1400年代に造られたとされている。今回の調査で出土した遺物には15世紀のものが一定数あり、また、輸入磁器や茶臼など、中世の城館でよくみられる遺物も出土している。これらが出土したことから15世紀段階で館として存在していたと物証の面から証明できたといえる。

若木館は若木城として史料上に見える。その廃城は1622年といわれている。今回の調査では16世紀に属する遺物がほぼ出土しておらず、その時期の状況がはっきりとしなかった。今後の検討課題といえる。（渡辺和行）



西側調査区南側で検出された柱穴の集中部（写真右側が北）



若木館跡の全景。手前が西調査区。中央付近が東調査区上段。写真左が北（空中写真）



工事用道路建設区から出土した遺物

史跡館山城跡は、米沢市西部の大字口田沢・館山地内の丘陵上に築城された山城と、それに伴う東館・北館と呼ぶ山麓居館（根小屋）で構成される中世～近世初期の城館跡である。平成28年3月1日付けで国の史跡となったが、緊急発掘調査への対応で事業を一時休止しており、令和2年度から調査を再開している。

今年度は、山城の西側に位置する曲輪Ⅲ南端の高台の調査を実施した。米沢市街と会津地方に向かう街道を見通せるため、山城の物見台と推定される場所である。櫓の柱穴や柵列等の遺構の有無、高台の造成時期や場の機能を確認するため調査を行った。

調査により、高台は自然の尾根を利用し、尾根の上に盛土を施して人為的に高台頂部の平場（南北約10m、東西約17m）を構築していることが確認された。盛土は高台頂部で約1.4m、高台頂部の端部では約1.1～1.9mの厚さがある。盛土は、白色基調の「盛土1」、黄褐色基調の「盛土2」に大別され、高台頂部の端部の一部では「盛土1」と「盛土2」の間に自然堆積土と考えられる黒褐色土層が確認されたことから、ある程度の時間差をもって2時期に分かれて造成されたと考えられる。また、高台頂部の端部では「盛土2」の下部

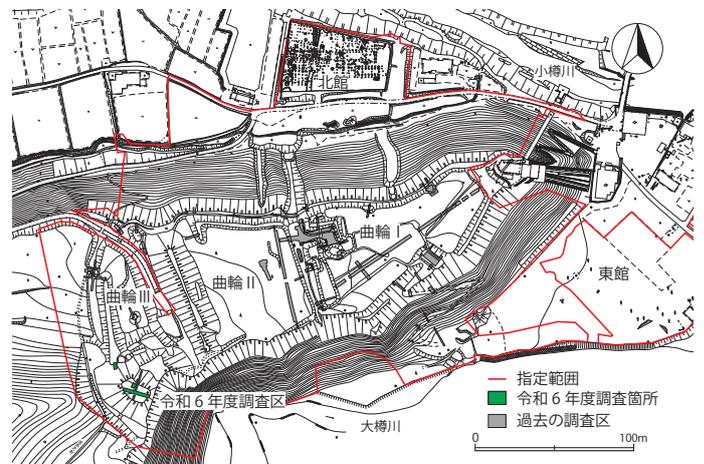
に平場を崩れにくくするためと考えられる約10～40cmに砕いた泥岩の石積みが確認された。

高台頂部には「盛土1」の上面に石祠があり、石祠の周辺や「盛土1」上面から賽銭と考えられる古銭（寛永通宝、聖宋元宝）が出土した。出土状況から「盛土1」は江戸時代には既に存在していたと考えられる。

「盛土1」上面で柱穴等は検出されなかったが、「盛土2」の上面で南北方向に延びる溝跡と考えられる遺構が1基検出された。

本調査では確実に山城に伴うと考えられる遺構・遺物は確認されなかったが、今後溝状遺構等に含まれていた炭化物の年代測定を実施し、高台の造成時期の検討を進めていく予定である。

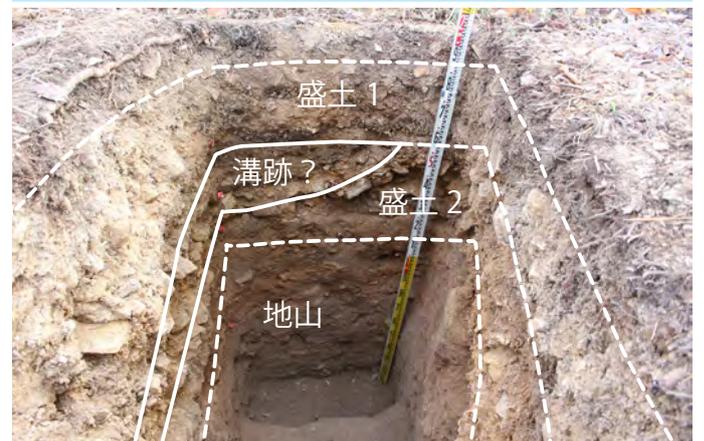
（八木博之）



史跡館山城跡調査区配置図



令和6年度調査区全景（東から）



高台頂部トレンチ土層断面（北から）

長岡南森遺跡は南陽市長岡地区の南森丘陵に立地する。遺跡保護と実態解明のため、平成30年度から確認調査を実施し、これまでの調査の結果から、丘陵頂部で古墳時代の竪穴住居跡を5棟検出し集落跡であることが判明した。第7次調査となる今年度は、これまでの調査で検出された遺構の規模等の補足調査を中心に調査を行った。

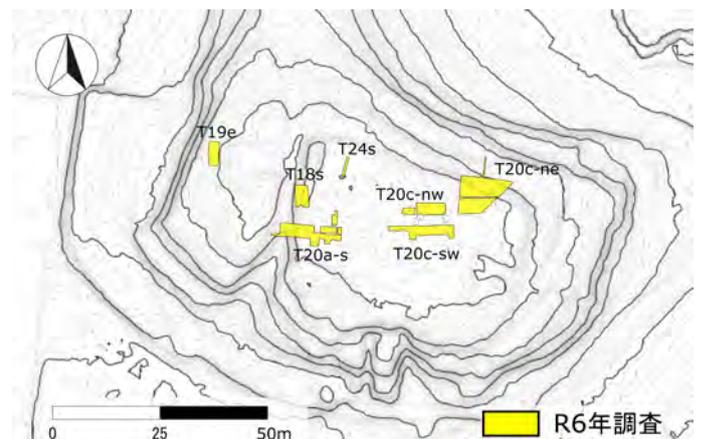
T18s 付近の丘陵肩部では新旧二時期の盛土が検出された。T19e では2号住居の東辺を確認し、一辺3.6m～4mの竪穴住居跡であることが判明した。T20a-s では6号住居と新たに7号住居が検出された。6号住居は一辺6.5m、7号住居は一辺7m～7.5mの竪穴住居跡とみられる。7号住居の床直上では古墳時代の土師器片が出土した。T20a-s の丘陵頂部西の溝跡（SD10）では、斜面流土及び溝底面から古墳時代の土師器片が出土した。またSD10からは寛永通宝が出土し、近世に溝跡を掘り直していることも明らかになった。T20c-nw、T20c-sw では4、5号住居と新たに8号住居の南西角を検出した。4、5号住居は一辺5.5m～6mとみられるが、プランについては検討が必要である。8号住居は一辺5m

以上の竪穴住居跡とみられる。またT20c-nwの表層下では高坏脚部を含む土師器片が検出された。T20c-ne では3号住居の西壁、北西・南西角と頂部縁辺でピット群が検出された。3号住居は一辺6.7mの竪穴住居跡とみられる。

遺物は土師器が中心で、縄文土器や須恵器片も出土している。土師器は高坏型のミニチュア土器や器台等の祭祀に関連するものが出土している。

本遺跡は付近の稲荷森古墳との関係が考えられるため、史跡としての保存・活用を視野に今後も調査に取り組んでいく。

（斉藤紘輝）



長岡南森遺跡調査区

今年度はT18s～T24s（調査区）を調査した。



T20c-nw 8号住居跡
南西角検出状況



T20a-s 7号住居跡
床直上の土師器出土状況

西田 1 遺跡と西田 2 遺跡の調査を同時に実施した。古墳時代・平安時代・鎌倉時代に作られた数多くの遺構が見つかり、当地の人々の暮らしが少しずつ見えてきた。

西田 1 遺跡 (図 2)

平安時代 (9 世紀後半) に建てられた総柱の掘立柱建物 (図 3) が 1 棟見つかった。倉庫として使われたと考えられる。他には、同じく平安時代の土坑、古墳時代の溝、中世の井戸・柱穴などが見つかった。調査区の西隣には船橋神社 (春日神社) が鎮座しており、関係する遺構だった可能性もある。

西田 2 遺跡 (図 1)

古墳時代では、2 基の方形周溝墓 (図 4・5) が見つかった。方形周溝墓 1 は、出土遺物から古墳時代前期のものと考えられる。もう一方も近い時期のものだろう。

鎌倉時代 (13 世紀頃) には、

数多くの柱穴、土坑、井戸 (図 6・7)、溝、そして池 (図 8) が作られた。無数の柱穴の存在は、かつて多数の掘立柱建物が建てられ、さらに近い場所に何度も建て替えられたことを示している。

池は庭園を構成するものであること、庭園は寺院に付属することが多いことから、この地に寺院



図 1 西田 2 遺跡完掘状況オルソ画像 (縮尺 1/800)



図2 西田1遺跡完掘状況オルソ画像（縮尺 1/800）



図3 西田1遺跡、掘立柱建物（北西から）

が存在した可能性が浮上してきた。このあたりを領有した長井氏に近い人物が建立したのだろう。

数多くの井戸が旧河道上に作られている。旧河道部分は砂地であり、地下水が豊富に含まれている。井戸には、縦板や曲物を設置したものや素掘りのものなどがあつた。大型の土坑は水脈を探すための試し掘りの痕跡なのかも知れない。なぜこんなに多くの井戸が必要だったのであろうか。
（水戸部秀樹）



図4 西田2遺跡、方形周溝墓1（南東から）



図5 西田2遺跡、方形周溝墓2（南東から）



図6 西田2遺跡、曲物のある井戸（北西から）



図7 西田2遺跡、井戸枠のある井戸（南東から）



図8 西田2遺跡、池（南東から）

東北芸術工科大学では酒田市の協力のもと、2020年度から「庄内地方の特性に基づく遺跡・遺物の活用の研究」を開始し、縄文～弥生時代を対象にした遺跡の調査・研究と現代における活用方法を探ることを目的として生石2遺跡の発掘調査を実施している。

過去3次にわたる試掘調査では、標高15.5～16mの比較的高い部分から古代の遺物の出土と溝状遺構を検出し、標高13.8～14.0mの低地部分からは古代の遺物に加えて弥生土器が出土した。また、古代の層の下部には矢流川の氾濫により形成された氾濫原堆積物を確認し、当該地形の形成過程の一端を明らかにできた。そこで、2024年度は低地部分の10m×5mの範囲を掘削し、弥生時代以前の遺構・遺物を確認することに努めた。

調査区北側では、現代の盛土1.25mを除去すると青灰色シルト層から摩耗した土師器・須恵器の破片が約5m×2mの範囲で平面的に広がって出土した。これは河川の氾濫等により流された遺物が水田（時期不明）の底部分に堆積したものと考えられた。

調査区南側では古代の土器とともに小礫が帯状（幅1m、長さ3m）に検出され、東から西に流れる自然流路の一部と判断した。



調査区全景（北東から）。奥の道路が山形県（1984年）、農協の建物が酒田市（1982・1986年）の調査地点

調査区東側では、壁面にサブトレンチを設定して土層を確認したところ、地表下1.25m以下の青灰色砂層中から弥生土器が出土し、より古い時代の文化層の存在が確認された。

遺物は大半が土器の破片で、縄文晩期末葉の特殊工字文である変形匹字文が施された浅鉢や、弥生時代前半期の甕の底部～胴下半部などが出土している。

調査はわずか4日間であったため、調査途中で埋め戻し、次年度以降により下位の地層の掘削を行うこととした。なお、当学術調査は大学の発掘実習を兼ねており、歴史遺産学科の学生18名が参加して行った。

（青野友哉・佐藤祐輔・渡部裕司）



古代の土師器片が平面的に広がる状況を確認している様子（西から撮影）



盛土層の下に縄文時代晩期末葉から弥生時代前期の土器の包含層があることを確認

越中山遺跡は鶴岡市（旧朝日村）を流れる赤川の河岸段丘、標高 100 ～ 105 m の大鳥苗畑面と標高 125 ～ 130 m の越中山開拓地面に広がる。過去には、山形大学などで教鞭をとられた故・加藤稔氏を中心として、1958 ～ 83 年に発掘調査が実施されていた。調査の結果、後期旧石器を中心とする資料が得られている。特に 1958 ～ 61 年の調査は、東北地方において初めて行われた旧石器時代遺跡の発掘調査として知られる。

新潟大学・東北大学を中心として組織した越中山遺跡調査団では、2023 年度から大鳥苗畑面を対象として発掘調査を開始した。今年度は、前年度に後期旧石器時代終末期の細石刃を中心とする石器群が出土した TP01 周辺を中心として調査を行った。

細石刃はカミソリの刃のように小さな石器で、動物の角などで作った軸にはめ込んで槍先の刃として使われたと考えられている。今回出土した細石刃は幅 1 cm と極めて小さく、製作時に擦られた痕跡がみられることが特徴である。また、主に黒曜石が素材となっている。このような細石刃を製作する技術（湧別技法白滝型）は後期旧石器時代終末期の北海道で発生し、津軽海峡を越えて本州へ南下したものと考えられている。

今年度の調査では、TP01 の南に隣接した TP13、TP01 から東に 3.5m 離れた TP11 において、TP01 から広がる石器群の分布を確認できた。TP13 では黒曜石製の細石刃などが出土し、TP11 では尖頭器やエンド・スクレイパーなどが出土した。出土した尖頭器は両面加工だが片面はおおむね平坦で、非対称な横断面を呈する。こうした尖頭器は、新潟県樽口遺跡など湧別技法白滝型の集団によって残された他遺跡でも出土している。

今後も出土遺物・試料の分析を進めるとともに、継続した調査を行っていきたいと考えている。
（青木要祐）



遺跡遠景（南から。大場正善氏提供写真をもとに作成）



TP11 での尖頭器出土状況



TP11 でのエンド・スクレイパー出土状況

高瀬山遺跡は、東西 1000m、南北 600m を越える広大な遺跡である。F 地点は高瀬山遺跡東北端の段丘上に位置する。これまで、市道改良に伴う発掘調査で縄文時代草創期の尖頭器や局部磨製石斧などの石器、縄文時代中期・晩期の土器、古墳時代の方形周溝墓・古墳、平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、土師器・須恵器などが検出され、この地に原始時代から古代にかけて人々の生活の足跡が色濃く残されていた。

今回の調査は個人住宅建設に伴うものである。縄文時代中期の土器や石器が出土したが、縄文時代の遺構は定かでなく、主な遺構は 9 世紀平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡などである。溝には当時の畑の畝とみられるものもあった。この地点で見つかった平安期の竪穴住居跡は、3 棟になった。

高瀬山遺跡では、山の西側の最上川沿いに大規模な古代の集落が営まれていた。今回の調査で、高瀬山段丘北側に点在していた、古代集落の広がりを把握することができたのである。
(大宮富善)



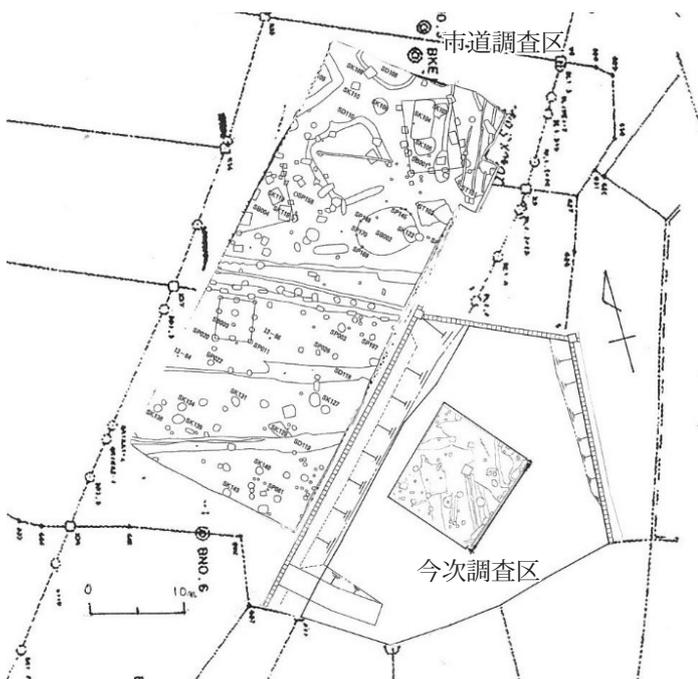
調査区全景 (南西から)



竪穴住居跡の調査 (南西から)



出土遺物 (スケール 10cm、1～5 縄文時代、6～13 平安時代)



高瀬山遺跡 (F地点) 調査位置図

諏訪原2遺跡は、JR左沢線羽前山辺駅の東方約1kmほどに所在する遺跡である。主要地方道山形朝日線での歩道設置による拡幅工事に伴う分布調査で発見された。本遺跡は山辺町中心部の西側に広がる丘陵地から続く段丘で、水はけがよい緩やかな傾斜地となっている。古くは桑畑として利用されていたが、ここ数十年はリンゴを中心とする果樹園となっている。当遺跡の北西には平安時代を中心とした諏訪原遺跡、東側には中世城館である山辺城跡がある。

今回の調査では、主に溝跡や柱穴、素掘りの井戸跡などの遺構が検出された。溝跡は、概ね南北方向を主軸とし、現在の地割ではなく区画整理以前の地割に沿ったものと見られ

る。出土遺物も近世の陶磁器片が多くあることから、近世から近代にかけての土地の区割りや道路の側溝などの溝ではないかと推測される。また、少量ではあるが、平安時代の須恵器の破片も出土している。8区では幅4m、深さ2mほどのほぼ直角に屈曲した大型溝跡が検出された。出土したのは縄文時代の土器のみあるが、大型溝跡の断面や堆積の様子から、河川跡というより人工的に掘削された溝跡で、縄文土器は後世に堆積土と共に流入した可能性が高いのではないかと考えられる。今後、一緒に出土した自然木の年代測定などを実施して遺構の年代を確定したいと考える。(齋藤健)



3区溝跡検出状況(北から)



5区井戸跡完掘状況(西から)



8区大型溝跡検出状況(南から)



8区大型溝跡完掘状況(西から)

本遺跡を含む米沢城跡は、米沢市教育委員会及び山形県埋蔵文化財センターによって多数発掘調査が実施されており、米沢市教育委員会で実施した調査としては今回で19件目となる。

米沢城は、文献史料によれば、暦仁元年(1238)の長井時広ながいときひろによる築城を起源とされているが、本格的な城の整備が行われたのは、天文17年(1548)に伊達晴宗だてはるむねが桑折こおり西山城にしやまじょうから米沢に本拠地を移した時と考えられている。その後、伊達氏は天正19年(1591)に岩出山城いわでやまじょうに移封されるまでの43年間居城する。伊達氏移封後、蒲生郷安がもうさとやすが城主となるが、慶長3年(1598)にわずか7年で宇都宮へ移封され、替わりに上杉景勝うえすぎかげかつの重臣、

直江兼続なおえかねつぐが城主となる。そして、明治4年(1871)に廃藩置県のため廃城となるまでの約270年間、上杉氏の居城となり、米沢藩の中核として機能した。

今回の調査は、個人住宅建設に伴う106㎡という狭い範囲ながらも、土坑・柱穴・湿地跡・倒木痕といった遺構が検出された。柱穴から明確に建物を確認することはできなかったが、底面に礎石を配置した柱穴もあり、何らかの構造物を構成していたものと推測できる。また、調査区北東側で湿地跡が確認された。湿地跡の底面には自然木が多く埋没しており、須恵器すゑぎの底部が出土した。平成10年に近接地で実施した「伝国の杜」建設に伴う大規模な発掘調査では、遺構は未確認ながら、古代の遺物が多数出土しており、周辺に古代の遺構が存在することが示唆されていたが、今回の調査で初めて古代の遺構(湿地跡)が確認されたことになる。

その他、主な遺物として、米沢城が機能していた中世の内耳土鍋片や近世の陶磁器片が出土した。

以上から、自然遺構ではあるものの、初めて米沢城築城以前の遺構が確認されたことは、大変大きな成果と言える。(佐藤智幸)



調査区全景(上が南)。写真の右上が柱穴群、左下の「L」字状の遺構が湿地である。



湿地跡。多数の自然木が埋没しており、この底面から須恵器の坏が出土した。



柱穴。底面に礎石を配置しており、大型の構造物があったものと推測できる



今年度報告遺跡と県内の主な遺跡の時代区分

年代	時代	今年度報告遺跡	県内の主な遺跡	山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史
BC30000年	旧石器時代	● 越中山 (鶴岡市)	清水西 (村山市) 水林下 (遊佐町) 太郎水野 (金山町) お仲間林 (西川町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人
BC11000年	縄文時代	草創期	日向洞窟 (高畠町) 火箱岩洞窟 (高畠町) 大立洞窟 (高畠町)	隆起線土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める 縦穴住居による小集落が形成される	弓矢がつかわれた 土器づくりがはじまる	農耕牧畜が起る
		早期	にひやく寺 (山形市) 月ノ木B (南陽市) いるかい (尾花沢市) 赤石 (村山市)	漆を使って文様を描いた土器がつけられる 計画的な大集落があらわれる	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる 落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる 関東地方に貝塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する	トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュクコ成立(約6000年)
		前期	川内袋 (鶴岡市) 押出 (高畠町) 小林A (東根市) 吹浦 (遊佐町)	縦穴住居に複式炉が作られる	環状集落が発達する	どうもろこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)
		中期	西ノ前 (舟形町) 水木田 (最上町) 熊ノ前 (山形市) 西向 (鶴岡市)	集落が減少する	配石遺構がさかんに作られる	楔形文字が使われる(約3500年) ピラミッドが作られる(約2850年) インダス文明がおこる(約2500年)
		後期	川口 (村山市) 小山崎 (遊佐町) かつば (最上町) 蕨台 (酒田市)	中国製青銅刀がもたらされる	亀ヶ岡文化が栄える 九州で米づくりははじまる	殷王朝がおこる(約1600年) 孔子生誕(552年) 仏教成立(450年) アレクサンダー大王生誕(356年) 秦王朝がおこる(221年)
		晚期	宮の前 (村山市) 釜淵C (真室川町) 下叶水 (小国町) 蟹沢 (東根市)	鳥海山が噴火する(前466年)		
AD1年	弥生時代	● 生石2 (酒田市)	百刈田 (南陽市) 上竹野 (大蔵村) 向河原 (山形市) 堂森 (米沢市)	米づくりがはじまる 機械がはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 環濠集落の発展	光武帝が匈奴に金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年) 魏呉蜀三国時代(220年)
300年	古墳時代	● 長岡南森 (南陽市)	天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) お花山古墳 (山形市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 嶋 (山形市)	鉄製農具がつかわれた 県内最大の前方後円墳がつけられる 東北最大の円墳がつけられる 小規模な古墳群がつけられる 蜂子皇子、羽黒山・月山を開山(590年)	前方後円墳がつけられる 大和の土師器が全国に広まる 須恵器がつけられた	ゲルマン民族大移動(375年) 南北朝時代(439年) ササン朝ペルシア全盛(531年) ムハンマド生誕(570年) 隋王朝がおこる(581年)
600年	飛鳥時代		大在家 (高畠町) 安久津古墳群 (高畠町) 羽山古墳 (高畠町) 双葉町 (山形市)	湯殿山開山(605年) 出羽郡が建郡される(708年) 出羽櫓が設けられる(709年) 出羽国が建国される(712年) 出羽櫓が秋田村高清水岡に移転する(733年)	聖徳太子摂政となる(593年) 十七条憲法を制定(604年) 平城京に都をうつす(710年) 東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をうつす(784年) 平安京に都をうつす(794年) 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 続日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	マヤ文明絶頂期(600年) 唐王朝がおこる(618年) 李白・杜甫・楊貴妃らが活躍
700年	奈良時代		壇山古窯跡群 (川西町) 大和田窯 (米沢市) 西田町下 (米沢市) 二色根古墳 (南陽市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年)	藤原氏の全盛(1016年) 前九年合戦ははじまる(1051年) 後三年合戦ははじまる(1083年)	カール大帝戴冠(800年) アラビアンナイト成立 高麗王朝がおこる(918年)
800年	平安時代	● 西田1 (高畠町) ● 高瀬山 (寒河江市)	堂の前 (酒田市) 俵田 (酒田市) 古志田東 (米沢市) 八反 (東根市) 駒籠館跡 (大石田町) 堀端・趾ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三條 (寒河江市)	鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年) 荘園の成立	将門・純友の乱(935-939年) 藤原氏の全盛(1016年) 前九年合戦ははじまる(1051年) 後三年合戦ははじまる(1083年)	宋王朝がおこる(960年) 神聖ローマ帝国の成立(962年) 十字軍の時代始まる(1096年)
1200年	鎌倉時代	● 西田2 (高畠町)	上の寺 (寒河江市) 大橋 (遊佐町) 長表 (山形市) 永源寺 (天童市)	斯波兼頼が山形へ入部(1356年)	鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)
1400年	室町時代	● 若木館跡 (山形市)	柳沢A (鶴岡市) 小田島城 (東根市) 上野 (鮭川村) 蔵増押切 (天童市)	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年) 義光の娘・駒姫処刑される(1595年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	ルネサンス全盛 マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年)
1500年	安土・桃山時代	● 山形城 (山形市) ● 館山城 (米沢市) ● 左沢橋山城 (大江町)	白鳥城 (村山市) 天童古城 (天童市) 亀ヶ崎城 (酒田市) 谷地城 (河北町)	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	東インド会社設立(1602年)
1600年	江戸時代	● 諏訪原2 (山辺町) ● 米沢城二の丸 (米沢市)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 慈恩寺旧境内 (寒河江市) 新庄城 (新庄市) 飛泉寺跡 (小国町) 坂ノ上 (山形市)	上杉鷹山、米沢藩主に(1767年)		清王朝がおこる(1636年) アメリカ独立(1776年) フランス革命(1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位(1804年) リンカーンが活躍(1861年)

